

| | | | | | | |
|---------------|------------------------|------|-----------------------|-------|----|-----|
| 施策番号 1-1-2 | 施策名 農業生産性の向上と経営基盤支援 | 基本目標 | 農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり | | | |
| | | 政策名 | 持続可能な農業の基盤整備と支援の強化 | | | |
| | 主管課 | 農林課 | 課長名 | 我妻 修一 | 内線 | 242 |
| | 施策関係課 | | | | | |

1. 施策の方針と成果指標

| 施策の方針 | 対象 | 意図 | | | | 結果 | |
|---|---------------------------------------|---|-------------|----------|----------|---|----------|
| 環境に配慮し、効率的な農業生産を進めるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展による安定した地域経済の推進を図ります。 | 農業経営体 農業者で組織 する団体(生 産・加工・流通) | <ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上に向けた土づくり、適正な輪作、病害虫・有害鳥獣対策を進める 先進的技術や施設整備による効率的な農業経営 地元産農畜産物のPRと販路拡大 | | | | 安全・安心の農畜産物の供給 持続可能な農業経営による地域経済の拡大・推進 | |
| 成果指標 | 説明 | 単位 | 策定時(2017実績) | 2019年度実績 | 2020年度実績 | 2021年度(予想) | 2022年度目標 |
| ① 農業産出額 | 農業生産額(農業再生協議会) | 億円 | 270 | 311 | 297 | 314 | 314 |
| ② | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①農業産出額を本施策の成果指標とし、過去最高の数値と同程度を目指すもの。 | | | | | | |

2. 施策の事業費

| | 2018年度決算 | 2019年度決算 | 2020年度決算 |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| 施策事業費(千円) | 455,509 | 1,026,646 | 3,857,924 |
| 人工数(業務量) | 4.4870 | 4.3966 | 5.4247 |

3. 施策の達成状況

| (1) 施策の達成度とその考察 | | | |
|------------------------------|--|--------------------------|---|
| ①2020年度の成果評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した | 想定される理由 | <ul style="list-style-type: none"> 農業振興センターの営農指導などによる農業経営基盤の安定化 良質な堆肥施用による土づくり支援 |
| ②2022年度の目標達成見込み | <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい | 根拠(理由) | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関による営農指導により目標の達成が期待できる。 ICTや新技術、機械・設備の整備により目標の達成が期待できる。 |
| (2) 施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括 | | | |
| ①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業 | 農業振興センター運営事業 農業気象情報機器管理事業 堆肥製造施設運営支援事業 | ②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 | |
| ③事務事業全体の振り返り(総括) | <ul style="list-style-type: none"> 技術普及、省力化体系の推進や、気象情報を活用した営農指導、経営分析を通じた農業経営管理の強化などにより、生産性向上、安定した農業経営基盤づくりが図られた。 畜産クラスター事業により、酪農現場における労働力確保等のための哺育育成施設の整備が進められた。 農業ICTについて、農村部全域に光ファイバーが整備されることとなり、高速通信基盤の営農における具体的活用策の検討が必要となっている。 | | |

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| 進捗結果 | A | B | C | D | E |
| | | | ○ | | |

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

| | |
|-----------------------------------|--|
| 施策を取り巻く状況と今後の予測 | <ul style="list-style-type: none"> ・予測不能な天候、新技術への対応など、農業振興センターによる営農指導がますます必要となる。 ・農村部における光ファイバー整備が2021年度中に完了し、今後農業現場におけるICTの活用が加速化することが予想される。 ・哺育育成施設の整備がほぼ完了し、2021年度から供用開始されることから、酪農現場における労働力確保への寄与が見込まれる。 |
| この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ | |

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センターの運営を継続、農業者への営農指導、経営分析による経営基盤の安定化を図る。 ・酪農経営の安定化を図るため、哺育育成施設の運営を開始、軌道に乗せるとともに、将来的な町営牧場との一括管理を目指して検討を進める。 ・町やJA等の関係機関、生産組織で構成する家畜ふん尿処理検討会において、家畜ふん尿処理施設等整備推進事業、堆肥利用マッチングシステムの検討等を行い、本町における家畜ふん尿の課題解決に向けた取組を進める。 |
|---|

6. 経営戦略会議(庁内評価)

| | | | | | | | |
|-------------|--------------------|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | 成果指標等から、前進したと評価する。 | | A | B | C | D | E |
| 進捗結果 | | | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | 5に記載の取り組みを進めてください。 | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | | |

7. 総合計画審議会(外部評価)

| | | | | | | | |
|-------------|-----------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | 努力した結果が出ているので、「C前進した」と評価する。 | | A | B | C | D | E |
| 進捗結果 | | | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | | <ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した | | | | | |